

メディアで報道される健康情報に関心が集まっています。が、そうした情報を見聞きする際に、注意すべきポイントは二つあるように思います。

一つ目は、記事の内容が、科学的根拠に基づいたものか確認することです。特に健康情報に関しては、ヒト臨床試験によって、その事実が証明されているかどうかが重要です。よくテレビで報道される番組内でのヒトの実験は、厳密な意味で科学的根拠とは言えないことが多いので注意してください。

科学的根拠として大切なのは、研究結果が客観的立場の専門家に批評・評価されて学術論文として発表されていることです。

二つ目は、記事の内容が事実と事実のつなぎ合わせによる仮説の段階のものではないかどうか、注意深く読み取ることです。「A=B」という研究結果と「B=C」という研究結果しか存在しないのに、「A=C」ということをもつともらしく報道している事例をよく見かけます。

しかし、「A=C」ということが個別に証明されていないければ、それは、あくまでも仮説でしかありません。では、実際のマスメディアの報道はどのような現状になっているのでしょうか。

昨年、発表されたアメリカの研究者が行った興味深い調査報告があります。この論文では、メディアや国民が興味を引くような学会での発表内容の中から、実際に新聞、テ

レビ、ラジオで報道された医療・健康に関する事例のうち、正確な情報が過不足なく伝えられているかを詳細に調べています。

その結果、研究方法がヒト臨床試験なのか、動物実験なのか伝えていなかった事例が約20%、研究に参加した人数など研究の規模を明らかにしていない事例が約35%ありました。また、研究結果の具体的な数値を明らかにしていない事例が約40%もありました。



大野 智  
が約40%もありました。

その一方、あえて研究のマイナス面や研究結果を解釈する上での注意点を一緒に伝えた事例はごくわずかしかありませんでした。

さらに記憶の新しいところでは、今年初め、わが国のテレビ番組で、健康情報を裏付ける科学的根拠がねつ造であったことが発覚した事例もあります。

## メディア情報の信頼性

私は、ここで、マスメ

ディアの報道姿勢だけを批判したいわけではありません。情報を受けとる側である皆さんにも、情報を取捨選択する知恵と知識を身につけていただき、自ら情報をよく吟味し、自分に合ったものを選び出すということを積極的に行ってほしいと思います。

そして、もしその判断が誤っていたと思えば、すぐに引き返す柔軟な姿勢を持つことも大切です。自ら考えることを放棄して、雰囲気やムードに流されることは避けなければなりません。

(金沢大学補完代替医療学特任助教)



テレビ番組の影響で一時、売り切れとなった納豆。その後、番組のねつ造が発覚した。東京都内のスーパーで1月